

CEの未来を創る。すべての人の笑顔を創る。

2023年冬号 vol.10
日本臨床工学技士連盟 広報誌

新年のごあいさつ

肥田理事長

医療安全管理者として期待する
臨床工学技士のみらい

地域臨床工学会での連盟の取組み

中四国ブロック / 中部ブロック /
関東・甲信越ブロック / 北海道・東北ブロック

みらい

-Mirai-



10年目のあけましておめでとう

理事長 肥田 泰幸

会員の皆様方には平素より連盟活動にご理解とご協力誠にありがとうございます。新型コロナウィルス感染症の終息を大いに期待した本年でしたが、その願いも叶わない様子でこの記事を書いている現在は、感染拡大第8波の入り口に差し掛かっているとの空気が漂っています。昨今はいろいろな出来事が地球規模で潮流しており、コロナ騒動のみならず温暖化や戦争など、対岸の火事と思われる事態も、物価高や自然災害影響によって直接わが身に降りかかる時代となりました。何気なく送っている日常生活も、世界中の人々による支えと協調によって成立しているのだと改めて感じる次第です。

さて、創設当初より連盟活動に対する支援の輪は伸び悩んでおりますが、その説得材料として、ここ数年は連盟や技士会の活動を、国(政府)の役割に例えて説明するようになります。「会費は対価を求めるために支払うのではなく、自分たち臨床工学技士国家資格を維持成長させるため

に、みんなで協力して支援する為に負担するもの。すなはち、国家を維持するための税金と同じ感覚として捉えて欲しい」と。しかし、その呼びかけが胸に届いているか不明ですが、少なくとも直接支援するという行動変容までには、

明らかに結びついていません。「ひとり」では無理でも、「みんな」なら出来る。この突破口一ガンがひとりひとりの胸に届き、みんなで臨床工学校士の未来を創造する集団として成長して欲しいと、心から願っているところです。

そんな中、10年目の秘策として「ワンコインプラン」と名付けた支援拡大の計画を実施することと致しました。現在は会員の割合は1割程度ですが、これを浅く広くより多くの方に支援の輪を広げようという計画です。都道府県単位でこの計画に取り組んでいたとき、支援の輪が広がるほど個人の負担が軽減される内容となっています。連盟の運転資金は創設当初から決して潤沢ではなく、この計画が失敗

すればさらに厳しい経済状態を強いられることになります

が、それでもより多くの皆様に我々の取り組みと活動の意義を知って頂きたいと念じ、役員一同断腸の思いでこの計画を実施することとなりました。

現在の厚生労働大臣である加藤勝信議連会長をはじめ、臨床工学校士に多大な理解を示し政策提言に大活躍をしてくださる自見はな子事務局長など、数多くの国會議員の先生方が見守ってくださっています。そのお陰があって、医師の働き方改革に伴うタスクシフトシェアや、新型コロナワイルスに対するワクチン接種の担当手として、臨床工学校士が取り上げられるようになりました。その期待に応えるためには、まずは数で恩返しをしたいと考へておられるのです。C.Eの未来を創る。すべての人

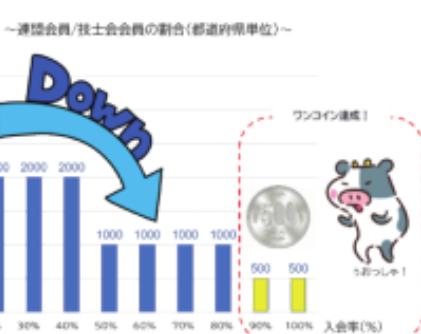
りたいとお願い申し上げます。

最後に私事になりますが、連盟創設10年目となる本年で還暦を迎えることになりました。

自身で歴史的な出来事と捉えている、臨床工学校士の資質向上を求める議員連盟(現臨床工学校士を支援する議員連盟)が創設した日は、奇しくも私の誕生日がありました。節目節目で自身の記念日とリンクしていることに運命を感じます。私の大好きなプロ野球の選手の多くは、引退後に野球に恩返しをしたいと、子供たちに野球教室を開くと聞きます。例えにするのは大変おこがましいですが、私自身はそういう志で残りの人生を全うしたいと、年男の本年に思いました。例えにするのは大変おこがましいですが、私自身はそういう志で残りの人生を全うしたいと、年男の本年に思いました。その期待に応えるために、まずは数で恩返しをしたいと考へておられるのです。「C.Eの未来を創る。すべての人



球に恩返しをしたいと、子供たちに野球教室を開くと聞きました。例えにするのは大変おこがましいですが、私自身はそういう志で残りの人生を全うしたいと、年男の本年に思いました。その期待に応えるために、まずは数で恩返しをしたいと考へておられるのです。C.Eの未来を創る。すべての人



新年寄稿文

衆議院地方創生に関する特別委員長

衆議院議員 橋本 岳



日本臨床工学技士連盟の皆様方には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申しあげます。また、肥田泰幸理事長はじめ皆様方におかれましては、日々臨床工学の進歩や発展、臨床工学士の資格向上に努められ、保健医療の向上と国民の健康の維持に大きく貢献してこられたことに、心から敬意を表します。

昨年8月に行われた第2次岸田改造内閣において、衆議院厚生労働委員長を退任し、衆議院地方創生に関する特別委員会では地域活性化や地方創生に関する総合的な対策を目指し日々議員活動につとめております。自由民主党内では「子ども若者」輝く未来創造本部実現会議の事務総長、社会保障制度調査会の事務局長、創業力の強化育成に関するプロジェクトチーム座長などを務めています。

私は、100%医療安全専門の専従医療安全管理者をしていきます。中小規模医療機関であります。なか増加傾向にあり、皆様には改めて御礼申し上げます。本年に入つてからも新型コロナウイルス感染症は収束するどころか増加傾向にあり、皆様には

およびこども政策の拡充や、医療・介護・年金など社会保障制度の将来的な維持などをはじめ、党における主要政策の議論の整理役として活動しました。また、昨年7月の参議院議員通常選挙においては、妻である自見はなが、臨床工学技士の皆様の絶大なるお力を賜ったおかげで2期目の当選を果たし、現在は内閣府大臣政務官として日々職務にあたっています。今後もこれまでの経験を生かし、「層構造」、職責を全うすべく尽力してまいります。また、人生100年時代になる中で、人々の安心の基盤は健

康です。新型コロナウイルス感染症患者が2020年1月に国内においてはじめて確認され以降は、臨床工学技士の皆様には、血液透析をはじめとする日常診療を維持しながら、新型コロナウイルス感染症重症患者に対する人工呼吸やECMO管理においてもご活躍頂いており、当時の厚生労働副大臣として、感染症対策の最前線で働いてくださっている皆様に改めて御礼申し上げます。本年

新たな業務拡大へ
想いを寄せる
一人の臨床工学技士
期待する臨床工学技士のみらい

本年も変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴連盟の益々のご発展を祈念いたします。
・
・
・

私は、100%医療安全専門

の専従医療安全管理者をしていきます。中小規模医療機関であります。なか増加傾向にあり、皆様には改めて御礼申し上げます。本年

東京都済生会向島病院
医療安全管理者
松田晋也

は、医療安全管理者は一人のことを多く、全ての医療安全管理の責任者を担う形になり職種は何であれ医療安全業務のみに従事することになります。最近では臨床工学技士も医療安全部門に配置されるべきだと私は強く考えています。

現在、医師の働き方改革を機

にタスクシフト／シェアが進められていますが、医療安全管理部門に参入することこそ最良の制度作りに努めてまいります。

さて、医療安全管理体制のみならず、医療国家資格の業務や各種の法律は国会で決められます。その国会に立つ国會議員たちへ様々な要望を届け、より良い制度とする橋渡しをすることがこの連盟の役割でもあります。

法の中で医療安全管理部門に臨床工学技士も配置義務を定めることができますが、法律を動かすことは間違いないでしょう。連盟は法律を動かすこともできると私は信じています。単に政治家と仲良くしているのではなく、臨床工学技士という資格のみらいを握っています。単に政治家と仲良くして

いるのではなく、臨床工学技士と連盟の業務として当たり前になることを夢見ながらこれからも連盟の応援を続けます。





Report
第8回
北海道・東北
ブロック報告書
Leaping

【会場／にぎわい交流館AU】

臨床工学技士の飛躍 ～未来のために～

「第8回北海道・東北臨床工学会」が令和4年10月15日(土)、16日(日)に秋田県秋田市の「にぎわい交流館AU(あう)」を会場に開催されました。

2014年(H26)に第1回北海道・東北臨床工学会が秋田県において行われ、各道県が引き継ぎ、一昨年新型コロナウィルス感染症による影響で延期となり、昨年青森県からのweb開催。7道県それぞれが開催を経験し、今回より2巡回に入りました。今回のテーマは「臨床工学技士の飛躍～未来のために～」医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアに係る法令改正による臨床工学技士の新たな業務範囲の拡大。この法令改正は

臨床工学技士が飛躍するための第一歩、そして更なるアップグレードが必要という臨床工学技士の輝ける未来について考える良い機会となりました。

連盟企画としては、展示ブースを提供していただき、秋田県担当の守澤さんを筆頭にたくさんの方々にご協力いただきました。連盟ブースといえば、最近では必須アイテムになつた「ガチャガチャ」(地方によつて言い方違いますかね)。年代もでしようか。(笑) も好評だったようです。覗きにいらした方々、若い方よりも中堅クラシフが多かったでしようか。

連盟の存在意義を若い方々にはもちろん、30代、40代が本気で考えるようになってきたのではないかと感じました。先輩から後輩へバトンをつないでいかなければと思いつます。また、連絡協議会においては守澤さんより「ワンコインプランについて」「プレゼンテーションしていただき、会員への理解、周知方法について各道県の現状に合わせ検討していくこととなりました。

今回は対面開催のみということで、残念ながら私は職場の都合上、参加することができませんでした。スタッフの皆さんのが難しい決断だったと思いましました。(引地)

あきたこまちの稻穂もすっかり刈り取られ、町の並木も色づき始めた10月中旬、3年ぶりの対面参加で「北海道・東北臨床工学会」が開催となりました。第8回のオーナーは秋田県(秋田市15～16日開催)、ワタシ

も運営スタッフとして北海道東北に参加。多方面からの臨床工学技士皆様をお迎えできることを感謝しての開催となりました。

参加皆様からは「お久しぶり」「やつぱり対面での再会はいいね」「リアル講演や発表はいいね」「久々の出張で楽しい」などなど。WEBミニーティングやオンライン学会・セミナーが日常化している今だからこそ、CE自分たちの輝ける未来を掴むためにCE連盟の必要性と重要性を感じもらっている。その上での会員体制に向かうことの必要性や、具体的なCE連盟の活動からの変化などの話題が少しづつ増えているように感じました。

会員拡大には、ひとりひとりの臨床工学技士が「今一步の行動!」と「何かしらの後押し」があれば! と思います。知名度は確実にアップしています。あとは「認知度」的な、臨床工学技士の輝ける未来のために、ひとりひとりの責務感「〇〇Passion!」だけかな? と感じました。

連盟「のぼり旗」を4本なびかせ(隣接ブースに負けない感じ、迷惑?)、広報誌「みらい」バックナンバーの設置、パッジやホルダーの連盟グッズ「連盟デュース」の連盟PR映像の連続放映、極めて時間的にはレアでしたがワタシとの対面会話で、明るく元気にオープン運営させていただきました。

● 北海道・東北ブロック理事
引地 誠

これからも! 共に! 何ごとも! 前に向かってポジティブに! 「Keep on Trying!!」

(森澤)



第2回
関東・甲信越
ブロック報告書

学会テーマ

大成百難に撓まず、勇往邁進し、空想は敗事の源泉なり

【会場／パシフィコ横浜アナックスホール】

Daesung

たわ

第2回関東甲信越臨床工学会および第5回神奈川県臨床工学会の学会长は小島優が務め、実行委員長は小島剛志、パシフィコ横浜アナックスホールで11月13日(日)開催されました。

テーマは「勇往邁進」、「大成百難に撓（たわ）まず、勇往邁進し、空想は敗事の源泉なり」。意味としては「一旦物事を始めたら、あらゆる困難にもくじけず、前に突き進んで成功しないといけない。あれこれと考えるのは失敗の元だ」に由来します。今臨床工学技士に求められるのは、これまでの「猪突猛進」ではなく、「勇往邁進」であつてほしいとの願いがこめられています。

冒頭挨拶では、臨床工学技士の課題色々、物事を成し遂げるには「自分の事としてほしい」、「誰かがやってくれるだろう」ではなく、「自らが行い、それを自らが伝えてゆく。そんな転換期がこの学会であり、「創め」であることを祈っているとお伝えしました。

基調講演では、(公社)日本臨床工学技士会本間理事長に、「勇往邁進～信頼される臨床工学技士をめざして」として臨床工学技士の現状と今後の方針をご講演いたしました。司会からは、コロナ感染拡大において、臨床工学技士に

学会は、各講演3題、各種セミナー・企業セミナー・ランチョンセミナー・BPA(学生2題・若手4題・一般6題)この時点で選抜されている)一般演題48題、ハンズオンセミナー3つ、体外循環教育委員会人工心肺実技セミナーで構成され、有償参加人数は536名およびスタッフ、各企業様が参加され600名以上の学会を開催できました。また今学会は参加型およびWEBでも実施しましたが、会場には400名以上も華やかな学会となり、あちらこちらで、「学会はやはり、リアルだよね」とのお言葉をいただき、感謝しています。

招請講演として「自見はなこ参議院議員」に講演いただき、今後の臨床工学技士の進む方向性についてお話をいただき、その中で特に声が大きかったのは医療DXです。情報の一元化だけでなく「プログラム機器は今後の医療の中になる。また政府としてこの部分はサイバーセキュリティを含め予算が多くついでおり、業界内でイニシア

ティブがとれるよう臨床工学技士が積極的に係わり、臨床

会として何か対策はあるのかの問い合わせに「技士会では会員に通知を3回は行っています。倫理委員会も内容を検討しているが、そもそも会員でない技士の不祥事が多い、教育、組織力強化のためにも会員になつてももらいたい」と返答され、司会からは会場に対して「このセミナーに参加されてる方の顔ぶれを拝見するとそれが部門で責任ある方が多いと思うが、ここにおられる皆さんにもご自身のこととしてお声かけをお願いしたい」として講演を締めくくった。

招請講演として「自見はなこ参議院議員」に講演いただき、今後の臨床工学技士の進む方向性についてお話をいただき、その中で特に声が大きかったのは医療DXです。情報の一元化だけでなく「プログラム機器は今後の医療の中になる。また政府としてこの部分はサイバーセキュリティを含め予算が多くついでおり、業界内でイニシアティブがとれるよう臨床工学技士が積極的に係わり、臨床



Report

第22回
中部
ブロック報告書

学会テーマ

【会場／ウインクあいち】

新たなる カタチへの進化

10月29日から30日にかけて、中部臨床工学技士会連絡協議会（愛知県・岐阜県・三重県・富山県・石川県・福井県・静岡県）と当番県の愛知県主催で愛知県の「ウインクあいち」にてハイブリッド開催となりました。工学会に先立ち中部臨床工学技士会連絡協議会の会議が開催され、その中で連盟中部ブロック理事として会員募集のお願いと共に連盟支援ワンドインプランについて話させていただきました。各県の事情がある中でやはり難しいとの意見もあり、そこは各県に持ち帰つて理事会で検討していました。いただきたいとお伝えしました。今後他県の取り組みを注視し参考にして中部ブロックに情報提供していくと共に、引き続き9年間の連盟活動の実績を各県技士会を通じて広報協力いただき、会員増加を推し進めていきたいと思います。

今回連盟ブースをメイン会場入り口前に用意して頂き、会員募集案内を行いました。多くの方からお声掛け頂き、自施設の若手技士に入会を促してくれるとの事で、入会案内をお受け取り頂きました。その中である技士さんの話で、病院実習の際学生から、前回実習先の病院では臨床工学技士業務拡大を

10月29日から30日にかけて、中部臨床工学技士会連絡協議会（愛知県・岐阜県・三重県・富山県・石川県・福井県・静岡県）と当番県の愛知県主催で愛知県の「ウインクあいち」にてハイブリッド開催となりました。工学会に先立ち中部臨床工学技士会連絡協議会の会議が開催され、その中で連盟中部ブロック理事として会員募集のお願いと共に連盟支援ワンドインプランについて話させていただきました。各県の事情がある中でやはり難しいとの意見もあり、そこは各県に持ち帰つて理事会で検討していました。今後他県の取り組みを注視し参考にして中部ブロックに情報提供していくと共に、引き続き9年間の連盟活動の実績を各県技士会を通じて広報協力いただき、会員増加を推し進めていきたいと思います。

● 中部ブロック 五条 敏和

考えておらず、病院として研修費の補助はしないと聞いたとの話がありました。この度の医師の働き方改革に際しての臨床工学技士法改正含め、我々にとって未来に向けての大きな前進と思えますが、一枚岩とは言えない現実を歯がゆく感じました。

ともあれ、今後も立ち止まらず、全ての臨床工学技士に現実と未来展望を伝えていけたらと思います。今後ともご支援ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

我々臨床工学技士も就職が難しくなってきたと感じることがあります。厚生労働省による需給予測は実施されておりません。そこで、連盟が独自に養成校の卒業者から推測した就業者数の推移を考えてみました。

需要、つまり働き先があるのかを推計するのは容易ではないため今回は推計していませんが、20年後には今の2倍程度の雇用先が必要となってきます。



Column
コラム

C E の 需 給 予 想

	資格取得者数	退職者数	総就業者数
2000年	800人		10,000人
2010年	1,200人	100人	20,000人
2020年	1,800人	300人	30,000人
2030年	2,000人	500人	45,000人
2040年	2,000人	700人	58,000人
2050年	1,800人	1,000人	66,000人
2060年	1,700人	1,800人	66,000人
2070年	1,600人	2,000人	62,000人





Report

第12回
中四国
ブロック報告書

学会テーマ

紡ぐ～人と技をつなぎ

未来を創造する～

Spin

【会場／岡山コンベンションセンター】

現地での開催は、2019年島根県大会の開催から数えて3年のブランクを経て、第12回中四国臨床工学会が10月1日から2日にかけて岡山コンベンションセンターで開催されました。現地開催の判断は、感染対策上難渋しましたが、結果、2日間でスタッフも含め中四国9県、ほかの地域からも850人以上の参加をいただきました。主催県関係者として改めてご協力をいたいた各位に御礼を申し上げます。大会テーマ「紡ぐ～人と技をつなぎ未来を創造する～」のもと、岡山の地で人と人を紡ぐ学会に参加できた喜びを感じた2日間でした。

本題の連盟企画の経緯ですが、この3年の間に、「医師のタスクシフト／シェア」を推進する告示研修の開催や、臨床工学技士の業務拡大と密接な関係のある参議院選挙もあれば、技術会の政治活動の重要な増すのを感じながら

ら、今回の連盟セッションを企画しました。

企画内容は、日本臨床工学技士連盟の全体像を肥田理事長から講演をいただき、地方からは、組織化のために都道府県連盟・政治活動の在り方が重要な講演となり、話題としても地域側で立ち上げられる福岡県臨床工学技士連盟有田誠一郎理事長をお招きし、座長に愛媛県臨床工学技士会宮崎昌彦会長、岡山県臨床工学技士会小野淳一会長にお願いしました。

講演内容は、肥田理事長からは、「臨床工学技士の未来を作りたい」と想いをカタチにする方法～想いをカタチにする」と題し、連盟の立ち上げ時には理解が得られず苦労したが、肥田理事長の「臨床工学技士のため」との想いが現在のカタチになるまでの歴史を、有田誠一郎福岡県連盟理事長からは、

として活動できにくい活動が堂々と行える。(2)県連盟会員の申込時に「申込書に記載された連絡先に選挙時に連絡が行く事」を了承いただいており、選挙時に名簿として活用できる。(3)選挙時に県医師連盟や県看護連盟と対等に連携・活動ができる。(4)応援する政治家の政治家々とスムーズに連絡を取ります。

方々とスムーズに連絡を取ります。

「福岡県臨床工学技士連盟設立の必要性と活動内容」と題し地方連盟の設立の経緯とその必

要性と、注意点などを具体的に紐解いて解説いただきました。特に、肥田理事長がポイントとして挙げられたのが、「臨床工学技士の資質向上を求める議員連盟」が(熊本県臨床工学技士会の働きが大きな力となつて)創設されたことがターニング

ポイントになつたとのことで企画しました。

企画内容は、日本臨床工学技士連盟の必要性と、「資格のアップデートを実現させるためには、政治活動の重要性を理解いただくこと」が重要だとい

うことでした。

最後になりますが、肥田理事長

コメントの引用で「現在の連盟の協力支援体制は日臨工会員全体の1割に満たなく発展途上であることを踏まえ」組織率向上には近道はなく、しっかりと理解をしてもらうことの積み重ねが大事である」とのお言葉と連盟黎明期の歴史を踏まえ、心新たに「地方の組織化＝カタチつくり」に取り組んでいきたいと思います。

● 岡山県連盟担当 西江 和夫

